

今月の

ピッコウ
アッコウ

生薬

12月

ダイオウ
大黄

昔から、この目的でよく使われてきました。



展示番号

No.33

今月は、大黄(ダイオウ)です。
タッチパネルモニターも
ご覧下さい。

使用部分 (つかうところ)

根茎



地面の下で、マルマルと
成長した根を刻んだものです。



産地 (とれる所)

中国、日本など



中国では四川省、日本では
北海道が多いです。

用途 (どんな時に使う)

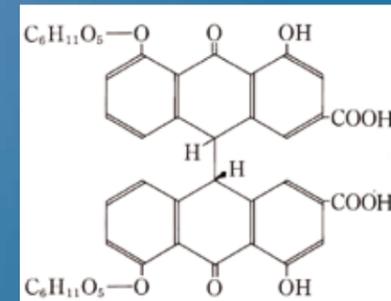
下剤

どんな植物

高さ、1.5~2m程になる多年草のタデ科の植物です。夏の初めに、円すい形の小さな花をたくさんつけます。生薬とする根の部分は、根茎と呼ばれ、根が肥大した丸い筒のような形になっています。赤黒い色をしています。これはまだ周りに皮が付いているものです。皮をむくと、薄黄色の本体が出てきます。普通、このままかんだりすることはないですが、砂をかむような感じだそうで、口にするとだ液が黄色くなります。また、ダイオウと耳で聞くと「大王」を思い浮かべる方もいらっしゃるかもしれませんが、漢字では「大黄」と書きます。ただ、大王ではありませんが、将軍と呼ばれることもあります。これは、ダイオウが色々な漢方薬に使われ、非常に重要な成分であると考えられたためです。大王ではないですが、将軍。この呼び名も面白いですね。

化学成分：センノシド (sennoside)

センノシドは、ダイオウの他にも、センナという生薬などにも含まれています。強い下剤としての働きがある成分です。そのまま下剤として働くのではなく、大腸まで届くと、腸の中の細菌によってレイナントロン (Rheinanthrone) という物質に変えられ、これがお腹をゆるくする性質を持っています。



センノシド (C₄₂H₃₆O₂₀)

来月は、No.55の木通 (モクツウ) を取り上げます。

※実際の医薬品としての効能などについては、薬剤師や、医師にご相談ください。